

# サラッと涼しいシーツの試作開発

— タオル製品デザイン企画手法開発研究 (H26)

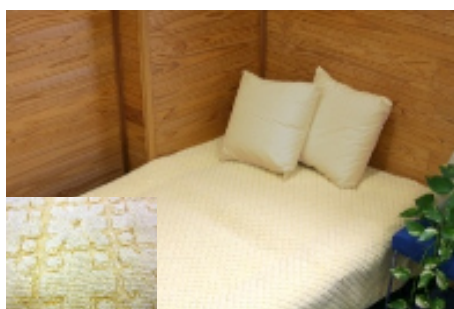
愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 小林 祐子

織組織（2重織・特殊組織等）、緯糸密度（打込本数）の検討や素材（天然素材）を応用した生地を試作し、通気性と保温性の評価を行った結果、肌触りに特徴があり、通気性が良いことで快適に感じるタオルシーツができました。

夏物衣料に見られるように、サッカー織、蜂巢織など起伏のある織り方は、肌への接点が少ないことや空気の層が出来ることで、熱伝導を抑え涼しく感じる事が出来ます。そこで、生地立体感や起伏を持たせ、通気性が良く涼感を得られるタオルシーツの試作を行いました。

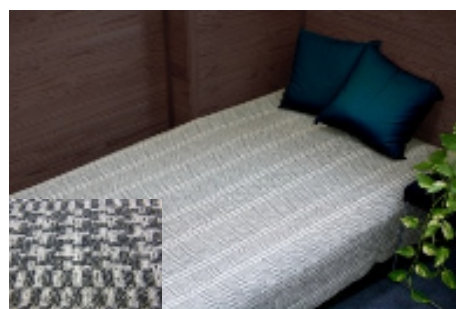
## 1. 蜂巢（ワッフル）織のタオルシーツ

特徴：太番手の糸を使用  
蜂巢織による凹凸感  
紙糸による通気性向上  
通気性 46.2cm<sup>3</sup>/cm<sup>2</sup>・s  
保温性 67.1%



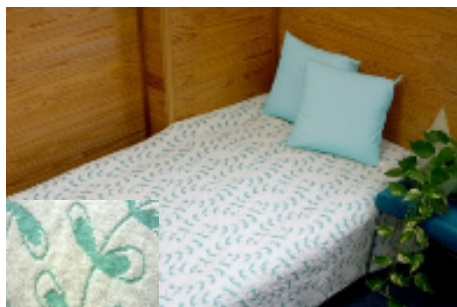
## 2. ガーゼ織のタオルシーツ

特徴：2種類のガーゼ組織  
ガーゼ組織による通気性向上  
パイルがないことによる保温性の減少  
通気性 116.5cm<sup>3</sup>/cm<sup>2</sup>・s  
保温性 54.6%



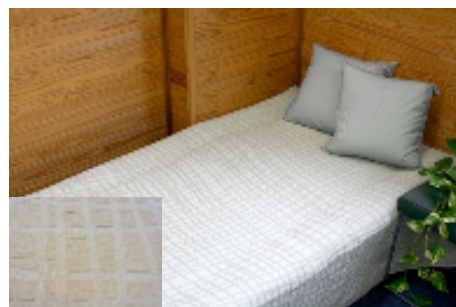
## 3. 朱子織のタオルシーツ

特徴：朱子織とパイル織  
パイルの優しい肌触り  
麻糸による通気性向上  
通気性 71.8cm<sup>3</sup>/cm<sup>2</sup>・s  
保温性 64.4%



## 4. 斜子（ななこ）織のタオルシーツ

特徴：斜子織とガーゼ織  
組織の違いによるしぼの形成  
パイルがないことによる保温性の減少  
通気性 56.5cm<sup>3</sup>/cm<sup>2</sup>・s  
保温性 56.4%



通常使用している綿糸よりも紙糸や麻糸を使用することで通気性が向上し、打込本数や織組織（蜂巢織、ガーゼ織、朱子織、斜子織）を変えることで快適に感じるタオルシーツの試作を行いました。